一般社団法人　日本建築学会

東北支部年報

第 37 号

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉 1-5-15
日本生命仙台勾当台南ビル 4F
TEL 022-265-3404
FAX 022-265-3405
E-mail: aij-tohoku@mth.biglobe.ne.jp
http://news-sv.aij.or.jp/tohoku/index.htm

巻 頭 言

わかりやすい建築

東北支部長　小林　淳

造家学会として発足した建築学会は、今年で創立 130 周年を迎えました。その活動を東北地域に普及させるとともに、地域の特性を踏まえた学術活動を展開し、さらにはその成果を発信するための役割を果たしてきたのが東北支部です。情報技術の進歩によって全国的な均質化が進んではいるものの、東北地方には奥州平泉以来の文化と伝統があり、中央とは異なった視点を背景とした発展を遂げています。文化の継承とともに災害に対する備えも重要で、周期的に繰り返される震災対応技術から冬季の克雪対策まで、社会基盤を支える建築技術に期待される役割には計り知れないものがあります。東北支部は、地域固有の気候・地理条件の中で育まれてきた生活の知恵とあわせて、都市と建築に対する考え方と技術を未来に向けて伝える役割を担っています。

この 1 年の詳細な活動内容に関しては本文をご参照いただくとして、恒例の支部研究報告会、9 分野にわたる研究部会における情報交換などの学術活動、あるいは、建築作品・設計作品を対象とした顕彰事業のほか、各種広報活動など、社会の期待に応えられる成果をあげております。

社会から期待される建築技術の役割を考えると、単なる技術者集団としての建築学会であってはならないと感じています。純粋科学ではなく、日常生活と密着した学問領域であることから、まずは、社会一般の皆さんに「建築とは何か」を理解していただく必要があります。この 1 年間を顧みれば、「親と子の建築講座」、「高校生を対象とした建築作品コンクール」などの企画による広報活動が実施されてきました。研究活動とともに、社会への貢献を目指す建築学会として、欠くことのできない要素であります。優れた建築作品の巡回展示などの活動もあわせて、「専門知識と法令で閉ざされた建築」という概念から脱却し、社会から「身近な建築」という評価が得られるよう努力してきました。

社会に受け入れられる建築技術は幅広く堅固な活動基盤を持つことになり、重要性を認識されることによって活性化され、さらに研究活動の領域を広げていくことになります。来る 6 月 17、18 日には、第 80 回東北支部研究報告会が「みちのくの風 2017 秋田」として由利本荘市で開催されます。会場は市民に開かれた「文化交流館“カダーレ”」に設定されております。会員諸兄の日頃の研鑽努力による研究成果を相互交換するとともに、社会への情報発信の場となることを期待しております。

もくじ

○巻頭言 …… 1
○企画記事 …… 2
○第 37 回東北建築賞作品賞選考報告 …… 6
○第 37 回東北建築賞研究奨励賞選考報告 …… 8
○第 27 回東北建築作品発表会報告 …… 9
○第 36 回東北建築賞表彰式及び展示会報告 …… 9
○日本建築学会作品選集 2017 東北支部選考経過 …… 9
○2016 年度設計競技東北支部審査報告 …… 9
○2016 年度東北支部研究報告会報告 …… 10
○2016 年度東北支部建築デザイン発表会 …… 10
○2016 年度日本建築学会東北支部総会報告 …… 10
○研究部会活動報告 …… 11
○支所だより …… 14
○支部役員会から …… 17
○支部役員名簿 …… 18
○2016 年度事業報告 …… 19
○2017 年度事業計画（案） …… 21
○法人・賛助会員名簿 …… 23

企画記事

「みちのくの風 2016 宮城」開催報告

常議員（総務企画）　有川　智

開催日：2016年6月18日（土）、19日（日）
会　場：東北大学工学部人間・環境系教育研究棟
　　人間・環境系教育棟（支部研究報告会、招待講演、東北建築賞表彰式）
　　トンチクギャラリー（建築デザイン発表会、東北建築賞作品展示会など展示会）
　　レストラン四季彩（懇親会）

１）支部研究報告会
発表題数：83題
参加者：18日（土）109名、19日（日）94名、延べ203名
・発表題数は昨年の8題減、参加者は52名増。但し、例年は初日のみ記帳する者が多いと報告されており、参加者の増加は参考値。
・主会場が1階のみでコンパクトに配置されていたため、総合受付・発表会場ともわかりやすく、効率よく利用できた。

２）建築デザイン発表会
発表題数：4題
参加者：10名
・昨年度に引き続き2度目の開催となったが、発表題数・参加者とも大きく減少。
・発表会は、順調に進行された。

３）招待講演（構造系）日本建築学会東北支部　会長訪問記念講演会
テーマ：「建築としての声を一つに」
講演者：中島正愛氏（日本建築学会会長/京都大学防災研究所教授）
参加者：約80名
・特に混乱なく、順調に進行された。

４）招待講演（計画系）基調講演
テーマ：「高齢化・少子化時代の歴史文化遺産の継承」
講演者：後藤治氏（工学院大学教授・元文化庁・歴史意匠委員会委員長）
参加者：約70名
・特に混乱なく、順調に進行された。

５）第36回東北建築賞表彰式・受賞記念講演会並びに第2回建築デザイン発表賞表彰式
参加者：約70名
・東北建築賞作品賞選考委員長の会場到着が遅れ、一部進行のもたつきがあったが、その他は表彰式・講演会とも大きな混乱もなく、順調に進行された。
・建築デザイン発表賞表彰式は、順調に進行された。

６）懇親会
参加者：55名（内、後藤先生1名分はご招待）
・前年度同様，一般料金（3,000円），学生料金（2,000円）とした。
・参加者は，一般50名，学生4名，招待1名であった。昨年よりも全体で17名増。
・特に混乱なく，順調に進行された。

７）第36回東北建築賞受賞作品パネル展示会・JIA宮城東北支部作品展示・法人会員技術報告建築作品展示会
参加者：2日間で延べ約80名
・前年度の反省を受けて、事前にレイアウトの確定と現場確認を済ませていたことから、設営はスムースに行なわれた。
・会場は、総合受付から見える位置にあり、案内等も特に問題はなかった。

８）会長を囲んでの昼食会と支部役員との懇談会
参加者：18名
・会長の予定変更により、短時間の会場滞在（講演会を含め3時間余り）となったが、和やかかつ活発に意見の交換がなされた。

９）その他、全体的な報告事項・反省事項など
・いずれの企画も、大きな問題なく、ほぼ時間通りに進行した。事前準備、会場準備・運営とも概ね適切に行われたと思われる。
・久しぶりの仙台開催であり、また地下鉄駅からも近い新キャンパスが会場ということで参加者の増加が期待されたが、大学行事等と重なり出席できない会員も多かった。事前に可能な範囲で日程調整が必要である。
・例年、自家用車での参加者が多く駐車場の問題が心配されたが、事前に周知することで殆どの参加者が公共交通機関（地下鉄）を利用し、特に混乱はなかった。
・昨今、大学施設の利用に関しては、従前のルールが変更される過渡期にあり、その手続きやコストの面で大きな課題を抱えている。今回も施設利用や共催手続きや共催手続き等のルールの厳格化に伴いの厳格化に伴い，「みちのくの風」のように複数のイベントを一体的に実施する場合，その手続きが非常に煩、「みちのくの風」のように複数のイベントを一体的に実施する場合、その手続きが非常に煩雑となり、大学側と交渉を行なう会場担当常議員には過大な負担をかけることになってしまった。
・前述の通り、大学開催の場合は会場担当常議員や現地教員の負担が自ずと大きくなるので、事前に負担軽減のためのしくみ・体制について十分検討することが必要である。

創立 130 周年記念　建築文化週間 2016
文化事業開催報告（東北支部）
シンポジウム「災害多発地域における建造物の保存・再生　－＜ジレンマ＞を超えて－」開催報告

常議員（総務企画）　高橋典之

2016 年 10 月 29 日（土）に，せんだいメディアテーク 7 階スタジオシアターにて，シンポジウム「災害多発地域における建造物の保存・再生　－＜ジレンマ＞を超えて－」が開催された。本シンポジウムは，本会創立 130 周年記念にあたり建築文化週間 2016 文化事業として東北支部が主催し，建築学の各分野（歴史・計画・材料・構造・環境）を領域横断的にまたいだ議論の場を提供することで，本会が現在掲げているスローガンでもある「建築としての声をひとつに」を体現すべく計画されたものである。参加者は約 50 名であった。

小林淳支部長　挨拶の様子

シンポジウムは 3 部構成で，最初に小林淳支部長より開会の挨拶，司会の野村俊一氏（東北大学准教授）より趣旨説明があった。第 1 部では，「建築物の保存・再生とその理念」を主題に，足立裕司氏（神戸大学名誉教授），大窪健之氏（立命館大学教授），山口俊浩氏（文化庁）の 3 名の講師から，「世界と日本の歴史的建造物保存ーその歴史と課題」「災害多発地域における建築物の保存・再生を通した防災まちづくり」「歴史的建造物の保存・再生と情報アーカイブの意義・課題」について報告された。第 2 部では，「建築物の保存・再生とその技術」を主題に，長谷川直司氏（建築研究所 建築生産グループ長），青木孝義氏（名古屋市立大学教授），小椋大輔氏（京都大学准教授）の 3 名の講師から，「オーセンティシティの確保と文化財建築の保存・再生」「文化財建築の保存・再生に資する構造工学技術」「文化財・文化財建築の保存・公開における環境調整技術」について報告された。第 3 部は，パネルディスカッションとして上記 6 名の講師から，歴史的建造物の保存・再生にあたり直面するさまざまジレンマ（取りうる方策の取捨選択）について白熱した意見交換がなされ，オーセンティシティの確保はコモンセンスによること，平時からの対応が非常時における保存・再生・活用に重要であることなどが確認された。最後に高橋（東北大学准教授）より，まとめと閉会の挨拶をもって終了した。

東北支部では，東日本大震災の経験をふまえ，災害多発地域が直面する／直面するであろう諸問題について，建築学の最先端から情報・教訓を引き続き発信する活動を続けていく予定である。

ディスカッションの様子

山形支所　その 1
2016 年度「親と子の建築講座」活動報告

山形支所長　相羽　康郎

日時：2016 年 7 月 5 日（火）　13：30～15：10
場所：山形県中山町中山中学校
対象：同中学 1 年生約 100 名その他約 10 名（教員および JIA 関係者）

大きな階段のある「ひまわりフォーラム」空間を使って、建築の教養としての情報と学校の設計についての説明を伝え、親にもその話を伝えてもらう意図で行った。講座後生徒全員に感想などをＡ４で 1 枚に記入してもらった。

1 コマ目　　「街並み建築・目印建築」：相羽康郎（東北芸術工科大学）

大工・工務店によって造られてきた街並みに対して、建築家は様式建築、近代以降は公共住宅や国際様式、現代の自由な形態の目印建築を創作してきた。大正時代まで日本の街並みは揃いの景観を維持していたが、近代以降個別バラ建ちとなり、近年になって建築家設計の街並み住宅地が出現し始めた。挙手によると、住まい体験は 1 戸建てが殆どでアパートが数割、最後 5 択の住みたいまちは、「街並みのある一般住宅地」と「街並みのある建築家住宅地」が多かったが、「図となる建築家設計住宅」も１～２割いた。

講座の様子

２コマ目　「中学校ができるまで」:布施剛臣(株式会社　鈴木建築設計事務所)

プロポーザルコンペで、幹空間(講座を実施したひまわりフォーラム等)などのコンセプトにより選ばれた後、中山中学校ができるまでが説明された。ワークショップで先輩達の思いを集め、先生・親との協議を経て、建築構造等を考え現場を管理して実現に至った。アンケートでは、先輩がメッセージを書いた球を入れたコンクリート構造の昇降口と、幹空間・ひまわりフォーラムの話への関心が高く、お気に入りは、教室(ロッカー)・廊下、ひまわりフォーラム・大階段、図書室、特別教室などが挙がっていた。

大階段のあるひまわりフォーラムで行われた講座

山形支所　その２
2016 年度「親と子の建築講座 2」活動報告

山形支所長　相羽　康郎

日時：2016 年 2 月 28 日(火)　10：55～12：30
場所：山形県飯豊町飯豊第一小学校
対象：同小学 6 年生約 25 名その他約 5 名（教員関係者）

飯豊第一小学校は 1 学年 1 クラス規模であり、6 年生は仮校舎での授業後 2017 年 1 月から本校舎を体験し卒業する学年である。年度末の貴重な時期に本年度第 2 弾が決まった。

1 コマ目　　「地と図・街並みと建築」：相羽康郎（東北芸術工科大学）

大工・工務店が担ってきた街並みの上に、目印建築を建築家が設計してきた。戦前の帝冠様式に郷土の建築家伊藤忠太は批判的で、山形市内の明善寺に築地本願寺の内部と同様の概念で集会のできる寺院を設計した。挙手で、住まい体験は茅葺農家 1 割、町家 0、一戸建て殆ど、アパート半数、マンション 2 割、最後 5 択の住みたいまちは、「街並みのある一般住宅地」4 割、「図となる建築家設計住宅」が 3 割、「ふつうの一般住宅地」2 割、「街並みのある建築家住宅地」1 割、「伝建地区住宅」0 であった。

今まで住んだことのある家（アパート）に挙手

２コマ目　「建築家のしごと」：田中晃（本間利雄設計事務所）

町医者をはじめ総合的に住まいを診断計画できる職能の建築家を将来の職業にも入れて欲しい。プロポーザルコンペで、西風を考慮して新幹線のように風上に向かい、東側に中庭を囲む双腕を伸ばした曲線の平面が評価された。体育館と吹き抜け階段スペースを取り囲む教室群と吹き抜けに面する 2 階図書コーナー(1 階生徒玄関上)、2 階上部に若干突き出る体育館と吹き抜けのハイサイド採光、テラスの手すりを西風に配慮した雪切りとしても活用した空間構成は雪国に適している。ドローンで撮影された上空から見た雪の積もった小学校の外観、事務所が施工中の市営野球場の建設プロセス画像に 6 年生は共感していた。

小学校の断面図で雪庇・日照の工夫を聴く

環境工学部会
2016 年度「親と子の都市と建築講座」
世界の住まいから夏のくらしを学ぼう
～国際理解ゲームとクールドーム作り～
活動報告

環境工学部会　担当者　菅原　正則

日時：平成28年7月23日、13:00～16:00
場所：せんだい環境学習館　たまきさんサロン
講師：鈴木信恵（建築環境コンサルタント）、菅原正則（宮城教育大学）
司　会：菅原正則（前掲）
参加者：14名（中学生１名、教育関係者８名、運営スタッフ５名）

趣　旨：
　地球環境の急激な変動を抑えるため、今後、国内外において温室効果ガスの排出削減がさらに求められるようになった（2015年12月、パリ協定）。これに対して、住まいを上手に使い「住みこなす」ことは、エネルギー消費量を少なくすることにつながり、地球環境を守ると考えられる。そこで、真夏に行われたこの講座では、冷房装置に頼らず、「住みこなす」ことで暑さをしのぐ方法を考えることにした。暑さの元は、日射しや湿気など数々あり、これらを思い通りに調整するのは一筋縄ではないので、暑い地域において人びとが気候風土の特徴を生かして住まう知恵を、「せかい・すまい・きこう」というゲーム教材や涼しさづくりの実験をとおして学ぶ。

内容：
　開催に先立ち、司会の菅原氏より主たる講師である鈴木氏の紹介および趣旨説明がなされた。鈴木氏はこれまで、建築設計や建築環境教育関連の著作などに携わってきており、現在はフリーの環境コンサルタントとして研究・教育活動に取り組んでいる。ご主人のお仕事の都合によりフィンランド在住であるが、このたびの帰国の機会をとらえて講師を引き受けて頂いた。今回は、鈴木氏が早稲田大学の研究員であったときに開発した「せかい・すまい・きこう」というゲームを通して、夏を涼しく過ごすための暮らし方を学んでいきたい。

（1）世界の住まいと夏のくらし
　講師の鈴木氏により、まず「せかい・すまい・きこう」が実施された。はじめに、参加者２～４名で１つのグループをつくり、世界地図や風景、住まい、服装のカード類で構成される教材キットが配られた。
　ゲームは、世界のどこか（今回は暑い地域）に住む友だちから、各グループに手紙が届けられて始まる。その手紙は読み上げられ、その内容から気候特性・風景、住居形態、友だちの服装を推測して、それぞれのカードの組み合わせを選ぶ。そして、世界地図のどの国・地域かも推測する。
　参加者はあれこれ議論しながら、配布物の組み合わせを行っていった。何通目かの手紙の内容から、それ以前の組み合わせが間違っていたと気づいたときには、カードを入れ替えて修正できるので、全グループが正しい組み合わせにたどり着いた。国・地域の推測は、あまり馴染みのないものも含まれていたため、正解できない場合も多かったが、ゲームの後の解説で、手紙をくれた友だちの暮らしについて新たに知ることも多く、有意義な機会となった。

「せかい・すまい・きこう」の配布物と実施の様子

（2）涼しい空間（クールドーム）を作ってみよう
　講師の菅原氏により、新聞紙ドームお茶室サイズ（出典：滝川洋二ほか編著「ガリレオ工房の科学あそび　エコCO2編」）が会場に設置された。鈴木氏の解説の中で行われた、蒸発冷却の効果を確認する実験を受けて、新聞紙ドーム２棟のうち１棟の内側を霧吹きで濡らし、表面温度が低い「クールドーム」とした。参加者は２棟の両方に入室し、体感温度の違いを比較した。

蒸発冷却の実験とクールドーム

（3）参加者の感想
　講座終了時に、参加者全員に感想をメモ書きして頂いた。以下に、一部紹介する。
「手紙が届いて、その家や服装を探すゲーム、とても面白かったです。エアメールの封筒やカードが全て透明な袋に入っているなど、準備やアイディアもすごいと思いました。イラストもかわいいのでテンションが上がりました。実際の写真や解説も充実していたので、すごく興味がわきましたし、楽しく学ぶことができました。＋αの知識も面白くてためになりました。」
「自分の体…暑さを感じる　からスタートし、身近なことへの気づき→世界の様々な住まい・衣服へとクイズ形式で展開していくことで土地に合う住まい方について知ることができ、児童・生徒にとって興味深いものとなると思われます。（中略）小学生であれば、世界地図をいくつかのエリアに分けて考えさせる。中学生であれば、中１で世界の地理を学んだ後に取り組ませると、関心が高まると思われます。」
「ドームは２つ作ったので、涼しさを比べることができて分かりやすかったです。実際に中に入って確かめるだけでなく、サーモグラフィーを使ったことでより分かりやすくなりました。」
「新聞紙ドーム、比較がよく分かりました。（中略）対象の年齢にもよりますが、大人でもこんなに盛り上がれるとは

…。」

このように、全体的になごやかでありながら、楽しく有意義な内容とすることができた。建築環境は「見える化」が難しく、また、再現する場合でもその時の気象条件など環境の影響を受けやすいため、本質が伝わりにくい。しかし、本企画のように適切な時期を選び、すぐれた教材を利用することで、その困難を補うことができる。そして、住まいを上手に「住みこなす」ことに思いを巡らせるきっかけづくりが可能になると考える。

謝辞　本企画の開催にあたり、日本建築学会 環境ライフスタイル普及小委員会、空気調和・衛生工学会 東北支部、建築設備技術者協会 東北支部、電気設備学会 東北支部、日本技術士会 東北本部 衛生工学・環境・上下水道部会、住まいと環境 東北フォーラム、宮城教育大学 環境教育実践研究センターからご後援を頂きました。
ここに記し、感謝申し上げます。

第 37 回東北建築賞作品賞選考報告

選考委員長　岩田　司

1. 応募作品
・小規模建築物部門 14 点
・一般建築物部門　 19 点
　計　　33 点

2.選考経過

(1) 事前打ち合わせ会議　2016 年 9 月 7 日（水）13:30～15:00
於　日本建築学会東北支部会議室

選考委員長の選出、東北建築賞作品賞募集要項、選考委員会規則などを確認した上で、応募作品の数とその内訳を確認した。東北建築作品発表会の運営方法及び東北建築賞作品賞の選考基準などについて事前打ち合わせを行った。

(2) 東北建築作品発表会　2016 年 10 月 1 日（土）9:35　～17：35
於　せんだいメディアテーク 7 階スタジオシアター

第 27 回東北建築作品発表会において応募 33 作品の発表が行われた。限られた発表時間の中でそれぞれのコンセプトが紹介され、発表会は全体として滞りなく進められ終了した。時間厳守にご協力いただいた発表者、諸氏に敬意を表したい。

(3) 第 1 次審査会　　2016 年 10 月 3 日（土）17:30～18:45
於　せんだいメディアテーク 2 階会議室

東北建築作品発表会終了後、会場を移し、現地審査を行う必要のある作品を選定することを目的として、第 1 次審査を行った。小規模建築物部門、一般建築物部門を別々に選考せず、全作品の中から半数程度に絞ることを目標に一人 10 票を投票することとなった。各委員が各々10 票を投票した結果、得票数順に 8 票～3 票までの 16 作品を第 1 次審査通過とした。なお、審査会に欠席された西脇委員の投票権は無効となった。また、24 番の作品について、小地沢先生は間接的な関与があるため積極的な論評は差し控えるものの、投票することは可能である旨承認された。以上の結果、小規模建築物部門 6 作品、一般建築物部門 10 作品の合計 16 作品を第 1 次審査通過とした。

次に、現地審査は 1 作品につき 2 名以上の選考委員がこれに当たることを確認し、選定された 16 作品について現地審査の分担を決め、現地において確認すべき点を検討し、作品管理者との連絡を含めた現地審査の日程調整は事務局を通して行う事とした。

なお、1 次審査の落選者へは 200 字程度の講評を選考委員分担で作成し、選考委員会として送付することを確認した。

(4) 現地審査

現地審査については 11 月と 12 月に選考委員で分担して現地審査が行われた。

(5) 第 2 次審査　2017 年 1 月 28 日（土）13:00～16:30
於：日本建築学会東北支部会議室

まず、岩田委員長より全体の進め方の確認があった。その後、1 作品ずつ現地審査担当委員からパワーポイントにより報告を受けた後、現地を確認した担当委員の印象等を確認した。作品についての質疑、審査委員の評価ポイント等についての討議を全審査員で行った。
投票の結果、小規模建築部門２作品、一般建築部門２作品を作品賞にする事が決まった。

(6) 選考結果

路地にかかる大軒
【所在地】宮城県仙台市
【設計監理】都市建築設計集団／ＵＡＰＰ
　　構造：寺戸巽海構造計画工房
　　照明：ライティングスタジオ LUME
【施　　工】気仙沼工務店
　　設備：装建設備
　　電気：千勝電気
　　外構・造園：竜門園

西根の家
【所在地】山形県長井市
【設計監理】渋谷達郎＋アーキテクチュアランドスケープ一級建築士事務所
　　設計協力：大類真光建築設計事務所
　　構造：鈴木啓/ASA
【施　　工】㈱マルニ建工
　　製材：㈲渡部製材所

電気：㈲手塚電気
機械：㈱遠藤設備
建具：㈲齋藤木工
木製サッシ：アルス㈱
暖房：渡辺ヒーティング㈱
左官：原田左官工業所
内装：㈱尚古堂

弘前市民会館（大規模改修）
【所在地】青森県弘前市下白銀町 1-6
【設計監理】 建築・設備：前川建築設計事務所
構造：横山建築構造設計事務所
設備協力：ユニ設備設計
音響協力：永田音響設計
地元協力：アトリエタアク
【施　　主】弘前市
【施　　工】建築：堀江・弘和・工藤建設工事共同企業体
電気：弘鉄・デンユウ・村岡建設工事共同企業体
機械：弘水・鎌田・岩木建設工事共同企業体
舞台機構：森平舞台機構
舞台照明：ユアテック弘前営業所
舞台音響：ヤマハサウンドシステム

矢吹町中町第一災害公営住宅
【所在地】福島県西白河郡矢吹町中町 332
【設計監理】建築：スタジオ・クハラ・ヤギ＋team Timberize
構造：MID 研究所
設備：環境設備計画スタジオ・ランプ
【施　　主】福島県矢吹町
【施　　工】髙田工業㈱

(7) 講評
【路地にかかる大軒】
本作品は、仙台市青葉区の市街住宅地の西南角地に立地する、夫婦および子供 2 人のための戸建住宅です。設計者がかつて近隣に居住していた経緯を踏まえての発注で、現代では失われつつあるご近所付き合いが残る地区であることを発注者家族と設計者が認識共有していることが、本作品の基礎のひとつとなっています。
南北にリビングダイニングと書斎寝室を配した明解な平面構成です。中央部 1 階のキッチンとエントランスギャラリーそして西側の大きな軒下外部空間とを直線的に連続させ、近隣との関係性を構築しています。またこれらとリビングダイニング･子供室は空間的に一体に接続しながらも、スキップフロアーにより区別とプライバシーの確保がなされています。これらを緩勾配の方形屋根が覆い、大きな一室空間としながらも、キッチンとリビングダイニングには床暖房を設備し快適な温熱環境を合理的に確保しています。
以上のように本作品は、近隣との関係性に配慮した丁寧な設計による高品質な住宅で、東北建築賞作品賞に相応しいものであると、結論付けられました。

【西根の家】
この住宅は、現代における雪国の農村集落における住宅のあり方をシンプルに体現していることが評価されました。除雪の負担となっている長い引込み道（序口）を短くし、前面道路と平行に建物を構えることで、伸びやかな屋根の姿が強調されています。外装には杉板が貼られ、杉材の縁側も軒下の心地よい風景を作り出しています。前面道路からの視界は、盛土によってほどよく遮断されていますが、垂木が表しになった室内からの空間的な広がりは十分に確保されています。建具の納まりがディテールまでよく検討されていることも評価されたポイントの 1 つです。加えて、この住宅にはペレットストーブや地元メーカーの木製サッシが採用されていますが、冬季の温熱環境やコスト、夏季の風の抜けや開け放たれた窓辺の風景など、適切に考慮されていることも好感が持てました。ストーブ、木製サッシ、散水消雪システムは、設計者が過去の数々の住宅設計でも試行錯誤しながら採用してきた経緯もありますが、西根の家はその集大成のような位置付けであるようにも感じました。

【弘前市民会館（大規模改修）】
弘前市には前川國男のフランスからの帰国直後から最晩年に至るまでの多くの作品が残されています。それぞれが市民により愛され現在でも大切に使われています。本作品は 1964 年に竣工した前川國男設計による公会堂の、前川建築設計事務所による大規模改修です。
50 年の歳月は、コンクリート打放し仕上げ躯体等の経年劣化のみならず、現代の建築として備えるべき機能と性能の不足を招きました。改修にあたっては、強度とともにコンクリート打放しの表情を蘇らせる躯体補修、オリジナルの窓サッシを活かした開口部改善、従来の音響を大きく変えないホール客席交換、ホール照明の LED 化と調光システム導入、違和感なく備えられた EV 新設、空調システムの現代化、屋上への PV パネル設置の工夫、照明器具や家具類そして色彩の復元等々がなされ、原設計への敬意に満ちたきめ細やかな配慮が随所に見受けられます。
作品そのものの建築的価値に加え、このような大規模改修を実現させた発注者・弘前市ならびに設計者の建築文化向上への貢献を評価し、東北建築賞作品賞に相応しいものであると結論付けられました。

【矢吹町中町第一災害公営住宅】
公営住宅の設計は整備基準の制約を受けがちですが、この住宅では町と連携しながら数々の設計提案を実現に移しています。提案の 1 つである集成材厚板パネルは、バルコニー周りの構造提案であるとともに、リビングアクセスの住

戸タイプにとって肝心な中間領域の形成に効いています。通路側からみると軒下には個人領域が楽しげに溢れ出し、住戸側にとっては長い軒が心地よく、その先の通路までのほどよい距離感を形成しています。住戸内に入ると、玄関からの奥行きが十分に感じられることに加え、その直交方向にも空間的な広がりを感じる構成となっています。ちなみに、この住宅は震災後に町が奥州街道沿いに計画した複数の公共施設の1つであり、町の南側の入り口に位置しています。その中で、他の施設とのデザイン的な調和や空間的なつながりも十分に考慮されており、街道を行く人びとの温かさに触れながら生活できる環境が生み出されています。この観点からも原発事故により他市町村から移転してきた方々にとっての住まいとして十分なものであると評価しました。

第37回東北建築賞作品賞選考委員会

選考委員長

岩　田　　司　　東北大学災害科学国際研究所

委員

最　知　正　芳　　東北工業大学工学部建築学科
飛ヶ谷　潤一郎　　東北大学大学院工学研究科
西　脇　智　哉　　東北大学大学院工学研究科
大　野　　晋　　東北大学災害科学国際研究所
茂　木　　聡　　株式会社ライフデザイン建築研究所
竹　内　　泰　　東北工業大学工学部建築学科
渡　辺　浩　文　　東北工業大学工学部建築学科
小地沢　将　之　　仙台高等専門学校建築デザイン学科
村　田　良　太　　有限会社村田弘建築設計事務所
野　村　俊　一　　東北大学大学院工学研究科

第37回東北建築賞研究奨励賞選考報告

選考委員長　山田　寛次

本年度の研究奨励賞について、構造分野から下記1件の応募があった。まず、専門の近い選考委員2名による予備審査を行った。その結果、候補論文として審査することとなり、2016年11月9日に選考委員会を開催した。当日の出席委員は5名で、欠席委員8名からは各々に審査報告書および委任状が提出された。審査対象論文、業績説明書、候補推薦書、及び欠席委員から提出された審査報告書に基づき審査を行った。それらの結果を踏まえて最終的に研究奨励賞には値しないと決定した。

畠山智貴：連続観測に基づく実存建築物の固有振動特性の長期モニタリング

当該論文は、建物の常時微振動を用いて構造ヘルスモニタリングを行うための実用的な知見の蓄積を目的としている。6棟の建物の膨大なデータを丁寧に分析することで、固有振動数に関して季節変動があること、また東北地方太平洋沖地震前後の変動と回復について報告しており、新たな発見を伴う有用な内容を含んでいる。巨大地震が恐れられている中、圧倒的な蓄積を持つ中低層建物の構造ヘルスモニタリング開発は意義が大きく、その発展に寄与できるものであると考えられる。また、新たな発見を速報にして公にする意味で、支部の研究論文としては極めて適切であり、それを奨励することも必要ではある。それらの内容面、研究振興への波及効果の観点から積極的に評価したい旨の意見があった。

しかし、奨励賞が具備すべき研究論文としての水準については議論が集中した。従来、本賞が対象としてきたのは発展を予感させる研究の論文であるが、当該案件はまだ報告の段階で、論文のレベルには到達していないのではないかとの意見である。つまり、当該案件はすでに準備され、長期観測を実施してきたデータを、従来手法によって解析した結果の報告であり、その結果の一般性、特殊性を判断するための考察がまだ出来ていない。著者はこの一報だけを著し他に関連論文がなく、考察に関わる部分で類似研究、参考文献への言及が全くない。そのことも当該論文がまだ速報段階であることを物語っている。

以上のような議論の結果、まだ本賞には値しないとの評価で一致した。なお、氏は応募時には修士課程1年生で、今後この研究を発展させることが期待できることから、その後に再び応募してほしいと言うのが選考委員会の総意であったことを付記する。

第37回東北建築賞研究奨励賞選考委員会

選考委員長

山　田　寛　次　　秋田県立大学システム科学技術学部

委員

木　村　祥　裕　　東北大学大学院工学研究科
佐　藤　　健　　東北大学災害科学国際研究所
Sanjay　PAREEK　　日本大学工学部建築学科
飯　藤　将　之　　仙台高等専門学校建築デザイン学科
石　井　　敏　　東北工業大学工学部建築学科
浦　部　智　義　　日本大学工学部建築学科
増　田　　聡　　東北大学大学院経済学研究科
崎　山　俊　雄　　東北学院大学工学部環境建設工学科
速　水　清　孝　　日本大学工学部建築学科
小　林　　光　　東北大学大学院工学研究
許　　雷　　東北工業大学工学部建築学科
平　岡　善　浩　　宮城大学事業構想学部デザイン情報学科
野　村　俊　一　　東北大学大学院工学研究科

第 27 回東北建築作品発表会報告

常議員（社会文化）野村　俊一

平成 28 年 10 月 1 日（土）に、「第 27 回東北建築作品発表会」がせんだいメディアテーク 7F スタジオシアターにて行われた。本発表会は、「東北地方におけるすぐれた建築活動を広く人々に知っていただくとともに、それを記録し、設計者および建築関係者の相互の研鑽の場とし、もって東北地方の建築にとっての共通課題の探求にあたること」を目的としている。

本年度は小規模建築物部門 14 作品、一般建築部門 19 作品の計 33 作品の発表があった。発表会および作品賞に関する簡単な紹介の後、岩田司選考委員長より発表にあたっての注意事項が説明された。各発表では、1 作品につき発表 8 分・質疑応答 2 分の時間配分で、作品のコンセプトやアピールポイントに関するプレゼンテーションが行われ、活発な議論が交わされた。当会は設計者間の研鑽の場であるとともに、建築学科生には建築家のプレゼンテーションを学ぶ大変良い機会でもある。今後も大学などを通して積極的に周知を行い、より活気のある発表の場とするよう努めてゆきたい。

第 36 回東北建築賞表彰式及び展示会報告

常議員（社会文化）野村　俊一

6 月 18 日(土)・19 日(日)に、「みちのくの風 2016 宮城」の一環として、東北建築賞表彰式および作品展示会が東北大学人間環境系教育研究棟にて行われた。本年の受賞は作品賞５作品であった。

表彰に先立ち、小杉　学作品賞選考委員長より選考経過報告と講評が行われ、続いて小林支部長より各受賞者に賞状・賞杯が贈呈された。表彰後、受賞者から受賞作品のプレゼンテーションが行われ、その後の懇親会では受賞者間の交流が図られた。本表彰式および展示会は、受賞者並びに作品応募者の方々をはじめ、選考委員長・選考委員・日本建築家協会東北支部など関係各位の準備と協力により開催できたものである。関係各位にこの場を借りて深く感謝申し上げたい。

日本建築学会作品選集 2017
東北支部選考経過

東北支部選考部会長　五十嵐　太郎

本年度の応募総数は 26 作品であり、前年度から 10 作品も増えたことが特筆される。震災復興のプロジェクト、あるいは震災で止まっていた建築などがエントリーしたことなどが、その一因だろう。6 月 22 日の第一次審査会では、投票によって現地審査の対象となる作品を絞り込み、14 作品を選んだ。対象作品は青森をのぞく、東北の五県に分布したが、宮城と福島の二県で 11 作品を占めている。とくに宮城の 4 作品、福島の 2 作品は震災関係だった。7 月と 8 月に随時、現地審査を実施し、8 月 22 日に支部の最終審査会を行った。その結果、本部推薦とする 10 作品を選んだ。内訳は、Ａランク４作品、Ｂランク４作品として、Ｓランク２作品である。本部の選考で最終的に残ったのは、Ａランク４作品、Ｂランク２作品、Ｓランク２作品の合計８作品となった。半分が震災関連である。が、必ずしもそうではない４作品が選ばれたことは、日常をとり戻しつつあることを示している。

≪委員≫

部会長	五十嵐　太郎	（東北大学）
委　員	鈴木　雄二	（株八洲建築設計事務所）
	水戸部　裕行	（㈱羽田設計事務所）
	菅原　紀昭	（㈲設計集団次元分室 菅原紀昭建築設計室）
	安田　直民	（㈲SOY　source 建築設計事務所）
	森山　修治	（日本大学）
	加藤　一成	（加藤一成建築設計事務所）

2016 年度日本建築学会設計競技
東北支部審査報告

課題：「残余空間に発見する建築」東北支部審査会報告

審査委員長　櫻井　一弥

支部審査会は平成 28 年 7 月 8 日、日本建築学会東北支部事務局において行われた。審査員は、浦部智義（日本大学）、野村俊一（東北大学）、安田直民（SOY source 建築設計事務所）、不破正仁（東北工業大学、審査当日欠席）、櫻井一弥（東北学院大学）である。応募のあった 13 作品中上位 4 点以内を支部入選とすることを確認の上、出席者 4 名がそれぞれ 4 点の作品を選び、議論を経て選考を進めた（当日欠席となった不破委員は事前に 4 点選出）。

投票の結果 5 作品が票を得た。5 票を獲得したのは「相反転の T/2 を描く　−都市のヴォイドを発見する火葬場の提案−（No.4）」と「会所地 3.0（No.7）」の 2 作品である。No.4 は、地域の象徴であった建物の跡地を残余空間と位置付け、その地下空間に新たな火葬場を建設するものである。残余空間の捉え方と秀逸な表現が高く評価された。No.7 は住宅地の裏側にあたる部分をつないでいき、地域コミュニティの形成に資する空間を構成していく作品で、身近な残余空間に対する適切なスケール感が評価された。いずれも満票を獲得していることから、異論なく入選となった。

「新・奥の細道　–埋没する町への視線–（No.6）」は4票を獲得したが、課題に対するテーマの設定は興味深いものの、最終的な建築空間の提案が弱いため、残念ながら入選には至らなかった。3 票を獲得したのは、秋田市内の大規模な公共空間に積極的に開発を行う作品「LINER MALL PROJECT　–地方における都市の流れの立体的空間化–（No.2）」と、東日本大震災の復興事業として整備されつつある防潮堤の海側を残余空間としその活用を図った「町と海をつなぐ壁（No.9）」である。いずれも、興味深い着眼点とその解決の方法が評価され、入選作品として選出された。

これら4作品は、課題の主旨に真摯に向き合ったものとして評価できる。

≪委員≫

委員長	櫻井　一弥	（東北学院大学）
委　員	浦部　智義	（日本大学）
	野村　俊一	（東北大学）
	安田　直民	（㈲SOY source 建築設計事務所）
	不破　正仁	（東北工業大学）

2016 年度東北支部研究報告会報告

常議員（学術教育）齋藤　俊克

2016 年度東北支部研究報告会「みちのくの風 2016 宮城」は2016 年6月 18 日（土）・19 日（日）の両日、仙台市の東北大学工学部人間・環境系教育研究棟を会場に開催された。発表総数は建築デザイン発表会4題、計画系 41 題、構造系 42 題の合計 87 題であった。初日は5会場、2 日目は4会場に分かれて、建築デザイン発表会・環境・計画・構造・材料施工の分野ごとに活発な意見交換が行われた。初日の午前には構造系招待講演・会長基調講演「建築としての声を一つに」と題して、中島正愛氏（本会会長・京都大学防災研究所教授）による講演が行われた。同日夕方には、第36 回東北建築賞表彰式並びに受賞記念講演会、建築デザイン発表賞表彰式が行われた。2 日目の午前には計画系招待講演「高齢化・少子化時代の歴史文化遺産の継承」と題して後藤治氏（本会歴史意匠委員会委員長・工学院大学教授）による講演が行われた。両日を通じて第36 回東北建築賞受賞作品パネル展示、JIA 宮城等作品展示並びに東北支部法人会員技術報告、建築作品展示会が同トンチクギャラリーにて開催された。いずれの企画も多くの参加者を集め、盛況のうちに無事終了することができた。

報告会に参加された方々をはじめ、準備運営に関わった関係者各位には深く感謝申し上げたい。

2016 年度
第2回日本建築学会東北支部建築デザイン発表会報告

建築デザイン教育部会　部会長　櫻井　一弥

2015 年度より開始した東北支部建築デザイン発表会は、2016 年6月 18 日(土) 10：00〜10：40、「第2回東北支部建築デザイン発表会」として、みちのくの風 2016 の一事業という位置づけで行われた。会場は東北大学工学部人間・環境系教育研究棟トンチクギャラリーで、応募4講演のポスター掲示、ならびに発表が行われた。限られた発表時間の中でそれぞれのコンセプトが紹介されるとともに、活発な質疑回答が行われた。講演の内容は、デザイン発表会らしく、個別の建物のデザインからリノベーション、エリアマネジメントに関わるものなど、様々な視点からまとめられた、バラエティに富んだものであった。

発表会終了後の同日 15：00〜16：00 に、発表全体を聴講した建築デザイン教育部会の部会員5名で、全4講演より1講演を選出し、建築デザイン発表賞の授与を決定した。様々なタイプのプロジェクトがある中で、どのように賞を選出するか、議論が難しかったが、最終的にはそれぞれのプロジェクトを多角的な視点から評価し、票を投じて決定することとした。選考過程とその結果については、第2回建築デザイン発表賞選考報告を参照されたい。

来年度以降も同様の形式で本発表会を継続して実施していく予定である。会員諸氏からの応募を期待したい。

2016 年度日本建築学会東北支部総会報告

常議員（総務企画）高橋　典之

日時：2016 年5月 21 日（土）　16:00〜16:25
場所：仙台メディアテーク7階スタジオシアター
出席者：85 名（委任状含む）
資料：
日本建築学会東北支部年報第 36 号
2016 年度日本建築学会東北支部総会式次第
資料 1-1　：2016 年3月 31 日現在　貸借対照表
資料 1-2　：2015 年度　正味財産増減計算書内訳表
資料 1-3　：2015 年度　正味財産増減計算書（予算との比較）
資料 1-4　：2015 年度　同上（事業毎の決算比較）
資料 2　：2015 年度　会計監査報告書
資料 3-1　：2016 年度　正味財産増減予算書
資料 3-2　：2016 年度　正味財産増減予算書内訳表
資料 3-3　：2016 年度　正味財産増減予算書（事業毎の予算　昨年度と比較）

有川智常議員による開会宣言の後，同常議員の司会により，以下の要領で総会が行われた。

１．出席者数及び委任状の確認
出席者 38 名，委任状 47 通，合計 85 名の確認があり，東北支部会員（3 月理事会報告人数）1,143 名の 1/30（38 名）以上に当るため，本総会が成立することが確認された。

２．支部長挨拶
源栄正人支部長による挨拶があり，今年度の総会が通常通りに開催できたこと，東北支部の現状などが報告された。

３．議事録署名員の選出
出席者の中から議事録署名員として，山口邦雄氏及び野内英治氏が選出された。なお，事業報告・決算報告は 5 月の本部通常総会での報告事項となっており，支部総会では報告のみとし議長は設けないこととした。

４．議事
東北支部規程により，以下（1）（2）の事項について報告された。
（1）2015 年度事業及び会計に関する件
1）2015 年度事業
Sanjay PAREEK 常議員より，支部年報 19～20 ページの「2015 年度事業報告」に基づき，2015 年度事業内容が報告された。
2）2015 年度収支決算
志賀俊輔常議員より，資料 1-1「貸借対照表」，資料 1-2「正味財産増減計算書内訳表」，資料 1-3「正味財産増減計算書（予算との比較）」，資料 1-4「正味財産増減計算書（事業毎の決算比較）」に基づき，2015 年度収支決算が報告された。
3）会計監査結果
笹渕優樹常議員より，資料 2「会計監査報告書」の通り，2015 年度の会計内容については疑義のない旨の会計監査結果が報告された。
（2）2016 年度事業及び会計に関する件
1）2016 年度事業計画（案）
永井康雄常議員より，支部年報 21～22 ページの「2016 年度事業計画（案）」に基づき，2016 年度事業計画案が説明された。
2）2016 年度収支予算（案）
濱口雅義常議員より，資料 3-1「正味財産増減予算書」，資料 3-2「正味財産増減予算書内訳表」，資料 3-3「正味財産増減予算書（事業毎の予算　昨年度と比較）」が説明された。
上記（1）（2）の報告内容について，特別な問題指摘などは無かった。

以上の議事終了の後，司会者により閉会が宣言され，2016 年度日本建築学会東北支部総会を終了した。

研究部会活動報告

(1) 歴史・意匠部会

部会長　崎山 俊雄

歴史・意匠部会は、建築史や文化遺産の保存・活用を専門とする研究者、県および市町村の文化財関連部局等に勤務する職員、および歴史的建築物の調査や保全に関わる実務家等で構成されている。近年、永きに渡って部会活動を牽引してこられた会員の退職等が続いたが、一方、昨年度の大沼・西松両氏に加え、今年度は更に中村琢巳氏（東北工業大学）と赤澤真理氏（岩手県立大学盛岡短期大学部）を新たに迎え、世代交代が進みつつある。

研究課題としては、昨年度の「歴史的建築及び資料の保存・活用に関する研究」を継続し、他分野の研究者や実務家とも連携しつつ、実践的な活動を一層充実させることを共通課題とした。「みちのくの風 2016」では、本部の歴史意匠委員会で主査を務める後藤治氏を招いて「高齢化・少子化時代の歴史文化遺産の継承」と題した招待講演を実施し、地域計画や都市計画などの関連領域をも巻き込んだ議論の展開を試みた。また、建築士会が各地域で歴史遺産の担い手を育成するために開催している「ヘリテージマネージャー養成講習会」や、建築家協会東北支部と正宗ワールドが共催した「仙台城ワークショップ」等では、部会員が講師として参画し、重要な貢献を果たした。

一方、部会として保存・活用への支援を訴えたが叶わなかった事例もあり、今年度は、湯沢市役所雄勝庁舎（秋田県）と旧田尻町役場（宮城県）の解体が決定された。こうした建築遺産は建築学的価値のみで保存・継承に繋がるものでは勿論ないが、部会が単に保存や活用を要望するだけでなく、一層積極的に地域や行政に関与していくことが重要との認識を新たにした。実践的な成果の蓄積と個々の成果の共有化、そしてそれらを目に見えるかたちで発信していくための取り組みを進めていくことが今後の課題である。

(2) 建築計画部会

部会長　坂口　大洋

建築計画部会は研究者・設計者を中心に構成され、建築計画に関わる研究・実践の両面から課題の整理や実践的手法に取り組んでいます。東日本大震災の発災から 6 年が経過し、復興事業の進展に伴い、嵩上げ工事、インフラの整備、災害公営住宅を中心とした公共施設などの復旧・整備などが進むにつれて、被災地ごとに新たな様相と課題が浮かび上がってきています。特に実際の生活が始まるにつれて、コミュニティの再生や持続的な街づくりのあり方に関して、部会メンバーの多くが調査研究・実践に関わっています。

また、昨年４月に起きた熊本地震による被害調査や課題共有についても九州支部との情報交換や課題の共有、メンバーによる現地における合同調査なども積極的に行われています。平成２８年度の建築計画部会は、部会としての企画・活動は行っていないもののコアメンバーによる復興事業の課題の共有、次年度の活動方針について議論を行いました。他方建築計画部会のメンバーの多くは、東北支部における調査研究活動とリンクさせながら多様な活動を行っています。活動の一端を紹介しますと、日本建築学会を中心とした８学会から構成された東日本大震災合同調査報告書編集委員会により昨年度刊行された東日本大震災被害合同調査報告建築編１０（建築計画）には石井先生（東北工業大学）、新井先生（東北工業大学）、坂口が各章の企画・検討及びとりまとめを担当したことに加え、メンバーの多くが執筆者として参加し被害状況、復興のプロセス、そして浮かび上がる課題を示しています。

次年度、建築計画部会でも継続して東日本大震災における復興課題の共有を目指しながら、新たなフェーズに対応すべき検討を行うものとする。また、各自治体、JIA などの関連諸団体との連携も深めていきたいと思います。

(3) 地方計画部会

部会長　増田　聡

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災の発生以来、被災地に位置する支部部会として、多くの部会員個人あるいはその所属組織で、震災復興計画の策定や復旧・復興事業の実施等の実務に携わるとともに、復興まちづくりや住宅地整備の進め方、さらには今後の都市・地域計画制度のあり方等に関する評価や提言等も進められてきた。震災前から本部会は、建築計画、都市・地域計画、都市デザイン、コミュニティ・オーガニゼーションなど、広義の計画系職能に関わる研究者・実務家・活動家・行政担当者も含んだオープンな活動の場を目指してきたといえ、震災後もその機能を継続している。

特に今回の復興現場では、福祉・教育・産業・生活支援等を含む多方面の関係者・専門家との連携も必要であり、中間支援やブリッジング役を果たしながら復興支援を進めてきた部会員もいる。そこで地方計画部会では、みやぎボイス連絡協議会（現在の構成メンバーは、以下の４団体：（公社）日本建築家協会東北支部、みやぎ連携復興センター、（一社）東北圏地域づくりコンソーシアム、宮城県災害復興支援士業連絡会）と協力して、シンポジウム「みやぎボイス」を 2012 年度から開催してきた。

みやぎボイス 2016 は「これまでの復興と、これからの私たちの社会」をテーマに、2016 年 2 月 28 日にせんだいメディアテークで開催されたが、部会員の一部は開催に向けた企画段階から、他の部会員は当日のパネリストあるいは聴衆として多数参加した。そこでの 5 年間の議論と復興諸課題の事件列分析を書籍にまとめ、現場・現地の経験と工夫の共有化を図るために鹿島出版会より出版した。ご関心のある皆様には是非ご一読頂き、今後の復興を考える際の助けとなれば幸いである。

みやぎボイス連絡協議会編（2016）『みやぎボイス：333 人による一人称の復興史/みやぎボイス 2016』、鹿島出版会

(4) 構造部会

部会長　木村　祥裕

構造部会では，6/25 に開催された JSCA 東北支部 30 周辺記念行事（建築学会東北支部共催）のパネルディスカッション「東日本大震災から 5 年」の企画・立案に協力し，構造部会委員からは東北大学教授・源栄正人先生，前田匡樹先生，佐藤健先生をパネラーとして，構造部会長である木村がコーディネーターとして参加した。150 名程度の一般市民，学生などの参加者の前で東日本大震災での被害を教訓として，大地震時に対する備えや対応について，予定時間である 2 時間を大幅に延長し，活発な討論を行った。

さらに，昨年度に引き継き，2/3 には建築学会東北支部構造部会と JSCA 東北支部の共催による講演会「鉄骨、RC、木質などの架構特性をふまえた制振設計法および指針の展開」（講演者：東京工業大学教授　笠井和彦先生）を開催した。大学教員，構造設計者や学生など約 150 名が出席した本講演は，JSCA 東北支部長・加藤重信と構造部会長・木村の挨拶に始まり，鉄骨構造，RC 構造，木構造に対する制振部材の開発，応答履歴性状の解明，設計法の確立について約 1 時間半にわたるものであった。講演後の質疑や講演後の懇親会では，実務設計者からの質疑が相次ぎ，極めて盛況であった。

このような見学会講演会を今後も継続的に開催し，建築構造に対する産学官のネットワーク強化を図っていきたい。

講演会の様子

(5) 環境工学部会

部会長　小林　光

環境工学部会は、「東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究」を課題として、東北地方のニーズや部会委員の学術・技術的な興味に沿った活動を行っている。これまでの活動は、年間2回から3回の部会開催と勉強会、市民向けあるいは専門技術者向けの研究会・見学会等の開催などである。環境工学者は比較的数が少なく、東北地方では空気調和・衛生工学会東北支部他の関連学協会との関係が密であり、イベントの共催・講演なども盛んである。また、部会内には大規模災害時の停電による空調・給 排水衛生設備の凍結対策技術WG、放射線環境WGを設置し、支部の特色やニーズを反映した調査活動等にも取り組んでいる。ここ数年の継続した部会企画として環境系のテーマにて「親と子の都市と建築講座」を開催しており、本年度は7/23 にせんだい環境学習館 たまきさんサロンにて「世界の住まいから夏のくらしを学ぼう-国際理解ゲームとクールドーム作り-」を開催した。環境・設備系関係学を含め、東北からのスマート化と環境・設備、BIM活用等をテーマとした取り組みへの機運が高まっており、これらを主題とした勉強会などを進めていく予定である。

(6) 材料部会

部会長　西脇　智哉

材料部会では、「サステナビリティ確保に向けた建築材料からの取り組み」をテーマとして活動を行った。新規テーマとなるため、今年度は特に各委員からの研究テーマに関する情報提供、また、各委員の所属機関を訪れての見学会などを中心に行い、委員間の情報共有に注力した。本年度開催した部会会議は次の通りである。第1回部会は、「みちのくの風2016」にあわせて6月19日に東北大学で開催し、今年度の活動内容に関する意見交換などを行った。第2回部会は、9月6日に日本大学工学部を会場に開催した。出村研究室・パリーク研究室所属の学生からの研究紹介をいただいたほか、敷地内に設置されている「ロハスの家」、および、実験室をご紹介いただいた。加えて、土木工学科・岩城研究室の輪荷重載荷試験機や「ロハスの橋」についてもご案内いただいた。第3回部会は、仙台市内の貸会議室を会場に、12月15日に開催された。東北大学での研究紹介を西脇から行ったほか、施工部会との連携について議論を行い、部会終了後は施工部会と合同で意見交換会の場を設けた。このような交流を、今後も続けていきたいと考えている。第4回部会は、2017年3月8日に開催された。名取市にあるBASFジャパン株式会社仙台製造センターの見学会、および、仙台高専に移動して学生からの研究紹介をいただき、実験室見学を行った。これまでは基本的に支部事務局の会議室での部会開催であったが、今年度は会場を移動して委員の所属機関の見学などを主体とし、活発な情報交換が行えたものと考えている。次年度も継続することで、より活発な意見交換と事業の活性化を図っていく予定である。

(7) 施工部会

部会長　飯藤　將之

施工部会では，平成28年度，5月，7月，10月,12月,2月に定例会を開催するとともに，仙台市内の大学において出前講義を実施した。つ　第1回は，27年度のテーマの最終回の位置づけであり，支持地盤が深く護岸・かさ上げができていない敷地に長大な高度衛生施設の施工をCM方式で実施し，工期短縮を図った技術報告がなされた。

第2回以降は，今年度の活動テーマ「建築施工における人材教育」に関して，部会員の所属組織での状況報告がなされた。学校関係委員からは卒業時の学生の進路選択，民間の委員からは，入社後の社員育成の状況について紹介された。新卒者の施工希望が少なくなる中，各社とも，新人・中堅・幹部を対象に工夫を凝らした研修プログラムが組まれていることが報告された。働き方改革が叫ばれ，労働時間管理や仕事に人を張りつける体制への移行などと関連して,建築施工の担い手を育てて行く難しさを共有しながら,活発な議論がなされた。

(8) 建築デザイン教育部会

部会長　櫻井 一弥

2016年度は、6月の「みちのくの風」に合わせて開催した「第2回建築デザイン発表会」の開催を大きな事業の一つとした。建築デザイン発表会の終了後に、部会員による「第2回建築デザイン発表賞」の選考を行った。また、もう一つの大きな事業として、2014年度よりJIA（日本建築家協会）東北支部との共催で実施している「建築学生テクニカルセミナー2016」を本年度も実施し、実りある成果が得られた。

第2回建築デザイン発表会は、2016年6月18日(土)10：00～10：40に、「みちのくの風2016」内の事業として東北大学工学部人間・環境系教育研究棟トンチクギャラリーにて行われた。応募4講演のポスター掲示と発表があったが、デザイン発表会らしく、様々な視点からまとめられたバラ

エティに富んだ内容であった。

建築学生テクニカルセミナー2016は、2016年12月9日（金）13：00〜16：00に、せんだいメディアテーク1階オープンスクエアで行われ、学生約50名、一般市民約20名、建築関係者約30名の計約100名が参加した。本部会からも数名の部会員が参加し、学生の作品に対する学内評価をコメントするなど、重要な役割を担って戴いた。

上記2つの大きな事業に加えて、第20回記念JIA東北建築学生賞に対する本部会からの審査員派遣を行った。実施日時は2016年10月20日（木）12：30〜17：30、実施場所はせんだいメディアテーク1階オープンスクエアである。2014年度より実施しているものであるが、建築実務界と教育機関との重要な交流の場として機能していると考えられる。

2017年度は、一部部会員の交替を予定しており、新規に加わって戴く部会員からも様々な意見を頂戴しながら、建築デザイン発表会と建築学生テクニカルセミナーの開催を大きな二つの柱として事業を進めていく予定である。

(9) 災害調査連絡会

部会長　前田　匡樹

災害調査連絡会では、地震などの災害の発生時に、迅速な被害調査、及び、復興支援活動を実施するための組織と連絡体制の整備に継続して取り組んでいる。委員長（前田匡樹）のもと、支部内の８研究部会（構造、材料、建築計画、地方計画、歴史意匠、施工、環境工学、建築デザイン教育）の各部会長及び部会推薦委員からなる連絡・調整幹事会を設置し、本部災害委員会・東北支部代表委員（秋田県立大・板垣直行教授）と連携しながら、災害発生時の情報発信と共有、被害調査の調整などを行っている。

2016年度は、4月14日及び4月16日に発生した熊本地震に対して、連絡・調整委員会でメール審議し、調査団の派遣について検討した。その結果、日本建築学会本部の災害調査方針に従い、支部としての調査団を組織はせず、各会員の判断で九州支部や本部の各委員会の調査に参加することとした。

その方針に基づき、支部内の各大学などの機関で随時被害調査が行われている。また、3 月には東北大学・前田研究室が行った建築研究所、NZ・オークランド大学などとの合同調査及びJ-Rapidワークショップに調査員を派遣して、被災RC造建物の復旧・復興状況や他機関の研究について情報収集した。これらについては、ホームページなどで発信していく予定である。

2016年熊本地震で崩壊したRC造建築物

支所だより

青森支所

青森支所長　盛　勝昭

2016 年度の青森支所の活動状況について報告いたします。

5月30日に第1回幹事会を開催し、講習会等の年間事業計画および収支予算等を議決・承認しました。その後も事業の実施に向けて細部を検討するため、幹事会を開催いたしました。

7月13日に開催した全員協議会では、幹事会で議決された事業計画を報告、出席者全員に協力をお願いするとともに、親睦を深めました。また、青森支所幹事で森内建設（株）代表取締役の森内忠良様を講師にお迎えし「オスカー・ニーマイヤーの建築」と題し、ご講演いただきました。現地を訪れた際に撮影した画像を拝見しながら、近代都市で初の世界遺産に登録された、首都ブラジリアの市街地の様子やダイナミックで自由な曲線を生かしたデザインの建築物を紹介していただきました。

10月8日、9日に、2016年度の『東北建築賞受賞作品展示会』が、八戸工業大学を会場に開催され好評を博しました。また、2月10日には八戸工業大学名誉教授毛呂眞氏による基調講演「青森平野の地形・地質と地盤震動」の後、「青森の小規模建築物の基礎について」青森支所長ほか役員によるパネルディスカッションが行われました。地元青森の地盤に関する演題ということで、積極的に質問や意見を発する聴講者もあり、盛況のうちに終了いたしました。

青森支所では、今後も地域にねざした活動で貢献してまいりたいと思います。

秋田支所

秋田支所長　苅谷　哲朗

秋田支所主催で秋田県工業高等学校生徒による建築設計コンクールも，本年で４５回目となり，９団体の後援を得て，参加校７校，参加生徒３０名、応募作品１３作品で，年々盛会となってきています。今回は，人口減少・少子高齢化をテーマとした作品というよりは、建築群の構成や配列のコンセプトの比較的大きな提案を掲げる作品が多く，その内容構成に文化的，機能的，手法を取り上げた施設計画が多かったことが特徴としてあげられ，高校生という若い世代の持てる技術と，先生方の適切なアドバイスとがシンクロして来ている様子が伺えました。また，プレゼンテーション技術も手の跡が感じさせられるものと，コンピュータ技術によるものとの融合が見られたものが比較的多かったようでした。その良し悪しについては、今後の発展を見てみましょう。

最優秀作品の写真

最優秀賞には、秋田工業高等学校生徒３人による「地上の太陽～Radiat World~地域資源・自然エネルギーそして新素材への挑戦, 秋田っ子たちのまばゆい世界～」を選定し，２月１２日にも，各方面からの他の賞も含めて，アルヴェのアトリウムでの表彰式を，小林淳東北支部長の参加の下に，公開で行いました。

この他にも，建築学会東北建築賞受賞作品や，秋田県立大学アトリウムでの全国大学・高専卒業設計の展示，秋田県建築士事務所協会主催による「第29回秋田の住宅コンクール」の後援と審査員の派遣など、例年通り他団体との連携にも力を注ぐことになっています。

表彰式写真

岩手支所

岩手支所長　廣瀬　公亮

2016年度の岩手支所の活動状況について報告します。

平成28年11月18日（金）に「第40回盛岡市都市景観シンポジウム」が盛岡市主催のもと開催され、当支所などが後援いたしました。

今回のシンポジウムでは、これらからより盛岡の魅力あふれる景観を形成するため、「次世代に継承する景観からのまちづくり～新都市・田園風景・自然景観～」と題し、基調講演では、森義真氏（石川啄木記念館館長）を迎え、石川啄木の記した詩や小説からみる盛岡の景観についての御講演、また、パネルディスカッションでは、コーディネーターに三宅諭氏（岩手大学農学部准教授）を、パネリストには金沢滋氏（盛岡市景観形成推進委員会委員長）、畑中美耶子氏（盛岡歴史文化館館長）、山添勝氏（山添計画工房代表）、森義真氏を迎え、「次世代に継承する景観からのまちづくり」をテーマに、身近な生活景観をはじめ、これまでの盛岡のまち並みの変遷を振り返りながら、次世代に継承すべき魅力ある盛岡の景観など意見が交わされました。まとめとして、ただ景観を守るということではなく、今後どのように手を加えていくべきなのか、それが将来どう評価されるのかという視点が重要であるとの意見が提起されました。

また、平成28年10月22日（土）及び10月23日（日）には「第36回東北建築賞作品展示会」をいわて県民情報交流センター（アイーナ）にて開催いたしました。

岩手支所では今後も、地域で開催される建築関係の活動等に対し後援などを行うとともに、機会を捉えて地域社会との交流を図る諸事業の実施に努めてまいります。

シンポジウム

東北建築賞作品展示会

山形支所

山形支所長　相羽　康郎

親と子の建築講座を２つの学校新築事例に即して実施する（別途報告）とともに、歴史的建築および保存に関する２つの会を実施した。いずれも山形市まなび館交流ルームで講演・座談会、関連する中心市街地の歴史的建築複数を1時間余り見学、以上を相羽の司会で進行した。

10・22（土）午後「世界の歴史的建築とくらし–ルーヴルとヴェルサイユの古今–」中島 智章（工学院大）＋香川浩・水戸部裕之の報告座談

ルーブル宮が城塞として建設され放置を含めて機能を変化しながら美術館に至った 800 年の経緯を、そこでの生活・行為まで子細に論じて頂いた。香川氏より中心部に建つ梅月堂の報告があり、空間の多義性、政治の実態が儀式化する事実や建築家の発想の役割など興味深い議論があった。

11・5（土）午後「木造建造物保存活用の現在」津村泰範(長岡造形大)＋二宮正一・小林和彦の報告座談

修復家として多くの実例によりながら、文化財の概念が広がり活用方策も多様化しているメガトレンドを報告いただき、木造の物理的限界、耐震、文化財指定による効果など、木造建造物保存の可能性を拡大するための多くの示唆に富んだ講演を頂いた。座談会では二宮氏が長井市の保存活動、小林氏が山形市西村写真館の保存について語る中、中心部の旧木村邸の保存可能性についてフロアから質問があり、建築の場所性、文化の見直しや木造耐震化のハードのみならずソフトの活用が必要との議論になった。なお議事録を市役所に届け後日副市長とこれに基づき意見交換したが、旧木村邸は残らなかった。

旧木村邸の見学

福島支所

福島支所長　村井　弘道

2016 年度の福島支所の活動状況について報告いたします。

今年度は、『福島県歴史的建造物保全活用促進協議会』の活動や建築関係団体との連携による『建築士事務所キャンペーン』の共催、『第 36 回東北建築賞受賞作品展示会』を中心に活動しました。

『福島県歴史的建造物保全活用促進協議会』では、歴史的建造物を保全・活用し、本県の建築文化を育み、美しい景観等を実現するため、年間計 13 回の講習会を実施し、歴史的建造物の保全活用の専門家(ヘリテージマネージャー)の育成、派遣、活用等を行いました。

2017 年 2 月 7 日に福島市で開催した『建築士事務所キャンペーン』では、「新技術・新工法セミナー」を行うとともに、「住宅・建築相談会」を開催し、被災復旧に伴うリフォームや耐震改修を計画されている方に対し、一級建築士等の専門家が相談に応じました。

また、「講演会」では、飯舘村に生産拠点を置く、株式会社菊池製作所（本社：東京都）の取締役本社工場・福島工場担当 高橋幸一氏から「ロボット産業にかける夢」と題し、震災後の会社や地域を盛り上げてきた苦労話や福島県が復興に向け進めているイノベーション・コースト構想への参画を目指している話など情熱を持った講演をしていただき、「ものづくり」への姿勢について、改めて見つめ直す良い機会となりました。

高橋幸一氏講演

『第 36 回東北建築賞受賞作品展示会』については、2 月 22 日から 24 日までの３日間、郡山市にて、「ＪＩＡ東北支部福島地域会＜震災後５年の今、被災地を巡る＞」及び「日本大学工学部卒業設計作品展」と合同で開催しました。学生の想像力溢れる意欲的な作品から、第一線で活躍する建築家の作品まで、数多くの建築作品が並び、見応えのある作品展となりました。

東北建築賞受賞作品展示会

今後も学術的な研究等を、福島の復興や地方創生に向けて広く還元し、発信するため、地域の教育機関や関係団体と連携・協働しながら、地域に根差した支所活動や事業の更なる充実に努めてまいり

支部役員会から

常議員（総務企画）永井　康雄

支部役員会は、支部長と 14 名の常議員で構成される。常議員は、会務を処理するため、支部役員会において会務を審議し、議決するものと定められており、東北支部全体の運営を担っている。支部役員会は、年 2 回以上支部長が招集することとされているが、基本的には隔月程度の頻度で開催されている。

本年度は、支部役員会が 5 月、7 月、9 月、11 月、2 月、（本稿執筆時点では実施されていないが 3 月も開催予定）に開催され、粛々と会務の処理を行うことができた。また、支部役員会の開催に際しては、Skype を介しての参加も可能としており、移動時間削減に伴う出席者の増加と、旅費削減に効果を上げている。

さらに、恒例となっている支部研究報告会を核とした「みちのくの風」の運営でも中心的な役割を果たしている。本年度は「みちのくの風 2016 宮城」と題して、第 79 回東北支部研究報告会と併せて第 2 回東北支部建築デザイン発表会が開催され、6 月 18 日（土）・19（日）を会期に、東北大学工学部人間・環境系教育研究棟、トンチクギャラリーを会場に開催された。18 日は、中島正愛氏（日本建築学会会長/京都大学防災研究所教授）をお招きし、「建築としての声を一つに」と題してご講演をいただいた。さらに 19 日には、後藤治氏（日本建築学会歴史意匠委員会委員長/工学院大学教授）をお招きし、「高齢化・少子化時代の歴史文化遺産の継承」と題してご講演をいただいた。

この他、支部長と総務・企画担当常議員は 4 月に総務会を開き新年度の準備に当たったほか、9 月には支部長・総務企画担当常議員も出席して支所長会議を実施し、みちのくの風、日本建築学会文化賞の推薦、次年度からの支所交付金の取り扱いについて報告・審議と意見交換を行った。

2016 年度の支部役員会で取り上げられた主な議事を以下に示す。

■4 月総務会（2016 年 4 月 22 日開催）
[報告事項]理事会報告、会計報告、決算報告、常議員選挙結果・役割分担、支部年報編集報告　[審議事項]総会資料（シンポジウム・懇親会）、みちのくの風 2016 宮城、建築文化週間事業、後援依頼、支部における「建築学会女性会員の会」について、東北建築作品賞、研究奨励賞内規・募集要項

■5 月支部役員会（2016 年 5 月 21 日開催）
[新旧役員の引継ぎ]　[報告事項]理事会報告、総会進行確認、みちのくの風 2016 宮城・業務確認、会計報告、災害委員会支部企画申請報告、共催承認　[審議事項]支部長代行者、学術推進委員への支部代表委員選出、建築文化週間事業企画、支部における「建築学会女性会員の会」発足・開催、東北建築作品賞・研究奨励賞内規・応募要項改定、支部の HP について

■7 月支部役員会（2016 年 7 月 29 日開催）
[報告事項]理事会報告、会計報告、総会報告・引継ぎ事項、みちのくの風 2016 宮城開催報告、作品選集 2017 応募作品と支部選考部会審査経過、本会設計競技支部審査報告、災害委員会支部市民企画採択報告、後援依頼承諾、東北建築賞応募状況　[審議事項]みちのくの風 2017、建築文化週間事業、支部の HP、本会文化賞推薦依頼、本会教育賞推薦依頼、本会大賞推薦依頼、支部運営に関する確認事項

■9 月支部役員会（2016 年 9 月 29 日開催）
[報告事項]理事会報告、会計報告、作品選集 2017 支部審査報告、18 期代議員および次期支部役員選挙、東北建築賞応募報告および東北建築作品発表会、湯沢市役所雄勝庁舎保存活用に関する再要望書、後援依頼、ISAIA2016 開催報告、設計競技支部入選　[審議事項]みちのくの風 2017 秋田、支部総会日程、支部における「建築学会女性会員の会」について、支部 HP

■12 月支部役員会（2016 年 12 月 6 日開催）
[報告事項]支部 HP、理事会報告、会計報告、代議員・支部長・常議員候補者届出報告、建築文化週間事業 2016 開催報告、東北建築作品発表会、東北建築賞研究奨励賞選考委員会、協賛依頼承諾、作品選集東北支部部会次期委員選出報告、2017 年度設計競技支部審査員選出報告、事務局雇用契約、学術推進会議報告　[審議事項]選挙管理委員会設置、2017 年度支部総会日程・会場・担当・付随行事、みちのくの風 2017 秋田、支部研究報告集会論文募集スケジュール・募集要項、建築デザイン発表会募集要項、2017 年度予算案、支部年報発刊、支部研究補助費申請、全国大学高専卒業設計展示会会場確認、本部災害委員会への委員推薦について

■2 月支部役員会（2017 年 2 月 21 日開催）
[報告事項]理事会報告、会計報告、支部総会日程・会場確認、支部研究補助費申請報告、東北建築賞作品賞選考報告、共催依頼・協賛依頼・後援依頼承認報告、支部年報 37 号原稿執筆依頼[審議事項]みちのくの風 2017 秋田、建築文化事業開催、東北建築賞作品賞・研究奨励賞の内規と募集要項改正、2018 年度大会、支部創立 70 周年記念行事、災害調査連絡会、事務局の雇用他

■3 月支部役員会（2017 年 3 月 7 日開催）
[報告事項]会計報告、支部のHPについて[審議事項]支部総会、みちのくの風 2017 秋田、東北建築賞募集要項、支部監事、旅費規程他

2017 年度　支部役員名簿

東北支部常議員の構成と役割分担

役　割	2016 年度 (2016 年6 月～2017 年5 月)	2017 年度 (2017 年6 月～2018 年5 月)
支部長	小林淳（秋田県立大）	小林淳（秋田県立大）
総務企画	永井康雄（山形大） 髙橋典之（東北大） 不破正仁（東北工大） 野内英治（日大） 山口邦雄（秋田県立大）	不破正仁（東北工大） 野内英治（日大） 山口邦雄（秋田県立大） 本江正茂（東北大） 崎山俊雄（東北学院大）
社会文化	福屋粧子（東北工大） 安田直民（SOYsource 建築設計事務所） 野村俊一（東北大）	安田直民（ＳＯＹｓｏｕｒｃｅ建築設計事務所） 野村俊一（東北大） 高木　理恵（東工大）
学術教育	齋藤俊克（日大） 一條佑介（東北文化学園大）	一條佑介（東北文化学園大） 堀川　真之（日大）
会計会員	志賀俊輔（仙台市） 濱口雅義（JR 東日本）	大橋　佳子（仙台市） 町野　東彦（JR 東日本）
図書情報	藤田智己（仙台高専） 小藤一樹（八戸工大）	小藤一樹（八戸工大） 小林　仁（仙台高専）
事務局	伊藤章子 瀧　美雪	伊藤章子 瀧　美雪 藤村陽子

東北支部会員数（2017 年 4 月 1 日現在）

名誉会員	23 名
終身会員	52 名
正会員（個人）	1, 159 名
正会員（法人）	34 法人
準会員	32 名
賛助会員	7 法人

東北支部監事

2016 年 6 月～2018 年 5 月

志賀　俊輔（仙台市）

髙橋　典之（東北大）

東北支部選出代議員

任　期	代　議　員
2016 年 4 月 ～ 2018 年 3 月	浅里　和茂（日本大学教授） 五十子　幸樹（東北大学教授） 西田　哲也（秋田県県立大学教授）
2017 年 4 月 ～ 2019 年 3 月	千葉　正裕（日本大学教授） 遠藤　匡彦（東日本旅客鉄道㈱東北工事事務所担当課長） 村尾　修　（東北大学教授）

研究部会長

研究部会	部　会　長
構造部会	木村　祥裕（東北大学教授）
材料部会	西脇　智哉（東北大学准教授）
建築計画部会	坂口　大洋（仙台高等専門学校教授）
地方計画部会	増田　　聡（東北大学教授）
歴史意匠部会	永井　康雄（山形大学教授）
施工部会	飯藤　將之（仙台高等専門学校教授）
環境工学部会	小林　　光（東北大学准教授）
建築ﾃﾞｻﾞｲﾝ教育部会	櫻井　一弥（東北学院大学教授）
災害調査連絡会	佐藤　健（東北大学教授）

支所長

支　　所	支　所　長
青森支所	盛　勝昭（㈱盛興業社　代表取締役）
秋田支所	苅谷哲朗（秋田県立大学建築環境システム学科教授）
岩手支所	廣瀬公亮（岩手県県土整備部建築住宅課総括課長）
山形支所	相羽康郎（東北芸術工科大学教授）
福島支所	斎藤祐一（福島県土木部建築住宅課課長）

一般社団法人　日本建築学会東北支部

自 2016 年 4 月 1 日

2016 年度事業報告

至 2017 年 3 月 31 日

〈事務の部〉

総　　会	1. 2015 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2016 年度事業計画・予算案	2016 年 5 月 21 日 せんだいメディアテーク
諸　会　合	総会（1）、支部役員会（8）、総務会（1）、支所長会議（1）、東北建築賞作品賞選考委員会（3）、東北建築賞研究奨励賞選考委員会（1）、設計競技支部審査会（1）、選挙管理委員会（1）、作品選集支部選考部会（2）大会準備会（2）その他部会など開催	（　）は回数
代議員半数改選	（留任）佐藤　健、杉山敬宏 （新任）浅里和茂、五十子幸樹、西田哲也	2015 年 4 月～2017 年 3 月 2016 年 4 月～2018 年 3 月
支部長改選	（退任）源栄正人 （新任）小林　淳	2014 年 6 月～2016 年 5 月 2016 年 6 月～2018 年 5 月
常議員半数改選	（退任）有川　智、苅谷哲朗、川村広則、小林　光、宮腰直幸 サンジェイ・パリーク、手島浩之 （留任）永井康雄、高橋典之、福屋粧子、齋藤俊克、志賀俊輔 濱口雅義、藤田智巳 （新任）山口邦雄、不破正仁、野内英治、安田直民、野村俊一 一條佑介、小藤一樹	2014 年 6 月～2016 年 5 月 2015 年 6 月～2017 年 5 月 2016 年 6 月～2018 年 5 月
企画運営委員	なし	
支 部 監 事	笹渕優樹、佐藤大作	2016 年 6 月～2017 年 5 月

〈支部事業〉

研究委員会	[部会名]　[部会長]　[テーマ名] 構　造　：木村祥裕　構造技術における新しい試み 材　料　：西脇智哉　サステナビリティ確保に向けた建築材料からの取り組み 建築計画　：坂口大洋　縮退社会における建築計画の課題抽出と実践化 地方計画　：増田　聡・東北のまちとまちづくり ・防災まちづくり ・環境問題と中心市街地の再編 歴史意匠　：崎山俊雄　歴史的建築及び資料の保存・活用に関する研究 環境工学　：小林　光　東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究 施　工　：飯藤將之　建築分野における最新技術とその施工法について 建築デザイン教育　：櫻井一弥　東北地方の建築デザイン教育の質的向上に関する研究 災害調査連絡会：前田匡樹　東北地域における地震及び各種災害が発生した際の調査、広報に関わる連絡や調整および関連事業の企画立案と支援	
本部・支部研究助成金による研究	・震災復興の総括ならびに生活再建に関する調査研究 建築デザイン教育部会（研究代表者　櫻井　一弥）	2016 年 4 月～2017 年 3 月
支部研究報告会	2016 年度　第 79 回東北支部研究報告会 研究報告集第 79 号計画系・構造系刊行　　発表題目 83 題	2016 年 6 月 18 日～19 日 東北大学
デザイン発表会	2016 年度　第 2 回東北支部デザイン発表会 発表題数 4 題	2016 年 6 月 18 日 東北大学
支部主催 支部共催 イベント	1. 支部主催 1）総会付随行事「震災復興・テーマの変遷 ～震災復興を通して考える、社会の在り方の移り変わり～ 2）建築教育文化事業「災害多発地域における建造物の保存・再生-<ジレンマ>を超えて 3）第 27 回「東北建築作品発表会」の開催（仙台市）	2016 年 5 月 21 日 2016 年 10 月 28 日 2016 年 10 月 1 日

	4）第37回「東北建築賞」の選考 5）みちのくの風2016宮城 ・支部研究報告会と招待講演会 ・第36回東北建築賞表彰式 ・第2回建築デザイン賞表彰式 ・第36回東北建築賞受賞作品展示会、JIA宮城地域会作品並びに東北支部法人会員技術報告，建築作品展示会 2. 支部共催 1）親と子の建築講座（山形支所） -「街並み建築・目印建築」「中学校ができるまで」- 2）親と子の建築講座（環境工学部会） -世界の住まいから夏のくらしを学ぼう- 3）第36回東北建築賞作品展示会 仙台市、山形市、由利本荘市、八戸市、郡山市	2016年10月～2017年1月 2016年6月18日～19日 東北大学 2016年7月5日 2016年7月23日 2016年6月～2017年2月
研究部会主催	1. シンポジウム 2. その他、部会ごとに講習会・研究会・見学会などを適宜開催	
表　　彰	1. 第36回東北建築賞　作品賞部門　作品賞5点 2. 日本建築学会設計競技支部入選者表彰代表者2名 3. 日本建築学会功労者表彰　個人会員5名、法人会員2社、賛助会員1社	2016年6月18日 東北大学 2016年5月21日 せんだいメディアテーク
支 所 活 動	青森支所 ・全員協議会 ・第36回東北建築賞作品展示会：八戸市 ・講演会　基調講演 -青森平野の地形・地質と地盤震動- 秋田支所 ・第36回東北建築賞作品展示会：由利本荘市 ・第45回秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクール 岩手支所 ・役員会 ・第36回東北建築賞作品展示会：盛岡市 山形支所 ・親と子の建築講座（中山町） ・親と子の建築講座（飯豊町） ・第36回東北建築賞作品展示会：山形市 福島支所 ・第36東北建築賞作品展示会：郡山市	2016年7月 2016年10月8・9日 2017年2月10日 2016年7月15～18日 2017年2月9日 2016年10月22・23日 2016年7月5日 2017年2月28日 2016年11月28日 ~12月5日 2017年2月22日 ～24日
刊 行 活 動	支部年報第36号発刊 東北支部研究報告集第79号計画系・構造系ならびに第2回建築デザイン発表会梗概集（CD-ROM）発刊 東北建築作品集（第27号）発行	2016年5月21日 2016年6月18日 2016年10月1日

〈支部共通事業〉

講　習　会	講習会 「鉄筋コンクリート構造保有水平耐力計算規準」	2016年4月15日 ハーネル仙台 参加者：89名
展　示　会	全国・大学高専卒業設計展示会 山形市、由利本荘市、仙台市、郡山市、八戸市	2016年7月～2016年11月
審　査　会	・2016年度支部共通　日本建築学会設計競技 テーマ：「残余空間に発見する建築」 ・日本建築学会「作品選集2017」東北支部選考部会	2016年7月8日 支部事務所会議室 2016年6月～9月 支部事務所会議室

一般社団法人　日本建築学会東北支部

自 2017 年 4 月 1 日

2017 年度事業計画（案）

至 2018 年 3 月 31 日

〈事務の部〉

総　　会	1. 2016 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2017 年度事業計画・予算案	2017 年 5 月 20 日 せんだいメディアテーク
諸　会　合	総会（1）、支部役員会（8）、総務会（2）、支所長会議（1）、東北建築賞作品賞選考委員会（3）、東北建築賞研究奨励賞選考委員会（1）、東北建築賞業績賞選考委員会（1）、設計競技支部審査会（1）、選挙管理委員会（2）、作品選集支部選考部会（2）、研究部会連絡会（1） 大会準備会（4）、大会実行委員会（6）	（　）は回数
代議員半数改選	（留任）浅里和茂、五十子幸樹、西田哲也 （新任）遠藤　国彦、千葉正裕、村尾　修	2016 年 4 月～2018 年 3 月 2017 年 4 月～2019 年 3 月
支部長改選	（留任）小林　淳	2016 年 6 月～2018 年 5 月
常議員半数改選	（退任）齋藤俊克、志賀俊輔、高橋典之、福屋粧子、藤田智己 濱口雅義、永井康雄 （留任）一條佑介、小藤一樹、野村俊一、野内英治、不破正仁 安田直民、山口邦雄 （新任）大橋佳子、小林　仁、崎山俊雄、高木理恵、堀川真之、 町野東彦、本江正茂	2014 年 6 月～2016 年 5 月 2015 年 6 月～2017 年 5 月 2016 年 6 月～2018 年 5 月
企画運営委員	なし	
支 部 監 事	志賀　俊輔、高橋　典之	2017 年 6 月～2018 年 5 月

〈支部事業〉

研究委員会	[部会名]　[部会長]　　[テーマ名] 構　　造　：木村祥裕　構造技術における新しい試み 材　　料　：西脇智哉　サステナビリティ確保に向けた建築材料からの取り組み 建築計画　：坂口大洋　縮退社会における建築計画の課題抽出と実践化 地方計画　：増田　聡　・東北のまちとまちづくり ・防災まちづくり ・環境問題と中心市街地の再編 歴史意匠　：永井康雄　歴史的建築及び資料の保存・活用に関する研究 環境工学　：小林　光　東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究 施　　工　：飯藤將之　建築分野における最新技術とその施工法について 建築デザイン教育　：櫻井一弥　東北地方の建築デザイン教育の質的向上に関する研究 災害調査連絡会：佐藤　健　東北地域における地震及び各種災害が発生した際の調査、広報に関わる連絡や調整および関連事業の企画立案と支援	
本部・支部研究助成金による研究	・環境に配慮し建築物を長寿命化させる建築施工技術に関する調査 施工部会（研究代表者　飯藤　將之）	2017 年 4 月～ 2018 年 3 月
支部研究報告会	2017 年度第 80 回東北支部研究報告会 研究報告集第 80 号計画系・構造系刊行　　発表題目 84 題 2017 年度第 3 回東北支部デザイン発表会　発表題目　6 題	2017 年 6 月 17 日～ 18 日 由利本荘市文化交流会館カダーレ
支部主催 支部共催 イベント	1. 支部主催 1）建築文化週間事業 2）第 28 回「東北建築作品発表会」の開催（仙台市） 3）第 38 回「東北建築賞」の選考 4）みちのくの風 2017 秋田 ・支部研究報告会と招待講演	 2017 年 10 月 2017 年 10 月 1 日 2017 年 10 月～ 2018 年 1 月 2017 年 6 月 17 日～ 18 日

	・第37回東北建築賞表彰式、第3回建築デザイン発表賞表彰式 ・第37回東北建築賞受賞作品展示会、JIA秋田等作品会 2. 支部共催 1）親と子の建築講座・建築文化週間事業 2）第37回東北建築賞作品展示会 仙台市、盛岡市、山形市、由利本荘市、八戸市、郡山市	由利本荘市文化交流会館カダーレ 2017年9月～12月 2017年6月～ 2018年2月
研究部会主催	1. シンポジウム 2. その他、部会ごとに講習会・研究会・見学会などを適宜開催	
表　　彰	1. 第37回東北建築賞作品賞部門　作品賞4点、 2. 日本建築学会設計競技全支部入選者表彰代表者2名 3. 日本建築学会功労者表彰　個人会員3名	2017年6月17日 由利本荘市文化交流会館カダーレ 2017年5月20日 せんだいメディアテーク
支所活動	青森支所 ・全員協議会 ・第37回東北建築賞作品展示会：八戸市 ・講習会 秋田支所 ・第37回東北建築賞作品展示会：由利本荘市 ・第46回秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクール 岩手支所 ・第37東北建築賞作品展示会：盛岡市 山形支所 ・第37回東北建築賞作品展示会：山形市 ・「親と子の都市と建築講座」 福島支所 ・第37回東北建築賞作品展示会：郡山市	 2017年7月 2017年10月 2018年2月 2017年7月 2018年2月 2017年11月 2017年6月 2017年7月 2018年2月
刊行活動	支部年報第37号発刊 東北支部研究報告集第80号計画系・構造系（第3回東北支部デザイン発表会込）CD-ROM発刊 東北建築作品集（第28号）発行	2017年5月20日 2017年6月17日 2017年10月1日

〈支部共通事業〉

講　習　会	2017年度日本建築学会支部共通事業「建築工事標準仕様書JASS6 鉄骨工事ならびに関連指針」改定講習会	2018年1月23日 ハーネル仙台
展　示　会	全国・大学高専卒業設計展示会 山形市、由利本荘市、仙台市、郡山市、八戸市	2017年6月～2017年11月
審　査　会	・2017年度支部共通　日本建築学会設計競技 課題「地域の素材から立ち現れる建築」 ・日本建築学会「作品選集2018」東北支部選考部会	2017年7月 支部事務所会議室 2017年6月～9月 支部事務所会議室

法人･賛助会員

阿部建設㈱

㈱工藤組

㈱関・空間設計

鹿島建設㈱

㈱久米設計

㈱熊谷組

清水建設㈱

仙建工業㈱

大成建設㈱

㈱竹中工務店

鉄建建設㈱

戸田建設㈱

㈱ユアテック

西松建設㈱

㈱安藤・間

堀江工業㈱

前田建設工業㈱

㈱ピーエス三菱東北支店

㈱三菱地所設計

㈱山下設計

㈱梓設計

東日本興業㈱

㈱阿部重組

㈱三上構造設計事務所

千田総兵衛建築事務所

㈱本間利雄設計事務所+
地域環境計画研究室

東日本旅客鉄道㈱

東北電力㈱

一般社団法人
東北空気調和衛生工事業協会

八戸工業大学

クレハ錦建設㈱

日本原燃㈱

㈱楠山設計

㈱ティ・アール建築アトリエ

㈱ＩＮＡ新建築研究所

㈱東北開発コンサルタント

山形県立図書館

日本大学図書館

東北芸術工科大学

日刊建設産業新聞社

一般社団法人　日本建築学会東北支部

支部年報第 37 号
2017 年 5 月 20 日発行　　**編集責任者（図書情報担当常議員）　小藤　一樹**